

府養研ニュース

2004年3月号

このページでは要点だけをお知らせしています。
詳細は、本ページのリンクをクリックください。新しいウィンドウが開きます。

府養研ニュースは各種案内等の事務連絡と一緒に、毎月第1月曜日にEメールで配布されています。第1月曜が祝日であれば火曜日発行になります。

来月4月号は年度始めなので、4月12日(月)発行予定です。

一部メール網がまだ整備中もしくは検討中の市町村は、郵送または逡送されています。

平成16年3月1日発行 大阪府養護教育研究会(広報部)
事務局 堺市立茶山台小学校 会長 本郷 くみ 〒590-0115 堺市茶山台2-5-1
問い合わせ・ご意見は、Mailで本部役員まで fuyouken@visithp.jp 変わりました)

府養研から

○ニュースの全部とバックナンバーもご覧になれます。 <http://fuyouken.visithp.jp/>
○返信・投稿・問い合わせ用メールは fuyouken@visithp.jp お願いします。

●講演会終了

「高機能自閉症、アスペルガー症候群といわれる子どもへの理解と支援」
田中康雄先生
(国立精神神経センター精神保健研究所児童思春期精神保健部)
平成16年2月24日(火) イコーラムホール(東大阪市)でした。

総会 多数ご参加ください。講演未定
平成16年5月13日(木)午後3時～5時 アウィーナ大阪3階葛城(東)の間

役員総会(本部役員・支部役員のみ 来年度役員の方、ご予約ください)

- 第1回平成16年6月10日(木)午後3時～5時 アウィーナ大阪3階生駒の間
- 第2回平成16年9月9日(木)午後3時～5時 アウィーナ大阪3階生駒の間
- 第3回平成17年1月13日(木)午後3時～5時 アウィーナ大阪3階生駒の間

府養研主催の障害者ケアマネジメント夏期研修会

○平成16年8月9日(月)～12日(木)

各支部から

南河内 南河内地区なかよし作品展終了 富田林市すばるホールにて 2月18日～2月20日

情報提供

最近の動向 [知って置くべき最近の障害児教育とその周辺の動向について](#) (Webページ紹介)

自閉症コーナー [TEACCHカンファレンスin大阪](#) 参加報告 (その1)

PA-Kproのホームページ 知的障害の人が安全に暮らすために <http://www.pa-kpro.com>

南河内地区なかよし作品展

2月18日（火）から20日（金）まで、富田林市の「すばるホール」で南河内地区の小学校、中学校の養護学級と富田林養護学校、藤井寺養護学校の児童・生徒の作品展が開催されました。1400点以上の作品と、2500人の来場者があり、盛大に終了しました。

「作品を通して、障害のある子どもたちに集団への参加の喜びを感じさせる。また、障害のある子どもたちに対する地域社会の認識を深める。」ことを目あてに、毎年2月の第3週の水・木・金の3日間、多くの作品が3階展示室にいっぱい並びます。



各校で取り組んだ子どもたちの1年間の成果や、出品に向けての子どもたち一人ひとりの課題作品を多くの人に見てもらい励みとしています。作品展に参加した子どもたちや先生方、鑑賞して下さった方々の感想を次年度に生かしていく所存です。

【感想文より】

「各校、各自、その子が一生懸命にしている様子がうかがえます。毎年、毎年、色々な発見があって楽しみです。子供に負けないよう、自分もがんばりたいと思える作品展です。」



「(略) 教室で障害者理解の学習をするよりも、この作品展を鑑賞するのが、何よりの学習になるのではないのでしょうか。今日は、ここまで足を運んでとても良かったです。」

「じっくり、ゆっくりかかわれば良い作品ができるのだと思います。(略) 皆の頑張りをもっと周りに認められれば良いなあとと思います。障害者の理解につながれば嬉しいです。又、作品

が将来いかせられる仕事等につながれば有難いです。」

(文責 南河内養護教育研究会書記 辻 悦子)

最近の動向

府養研本部書記 田村真一

ネット散策だけで、障害児教育関係の最近の動きをつかむことができます。
以下に有用なホームページを紹介します。

「小・中学校におけるLD(学習障害), ADHD(注意欠陥/多動性障害), 高機能自閉症の
児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン(試案)」

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/01/04013002.htm

「横浜市障害児教育プラン」原案(2004年2月16日公開)

<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/shingikai/shougaijiplan/pabukome.html>

東京都心身障害教育改善検討委員会の最終報告(2003年12月25日公開)

「これからの東京都の特別支援教育の在り方について(最終報告)」

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/press/pr031225g.htm>

埼玉県特別支援教育振興協議会の検討結果報告(2003年11月20日公開)

<http://www.pref.saitama.jp/A20/BN00/hp/toksaishu/hokokuindex.htm>

京都府のLD、ADHD等のサポートマニュアル(2004年2月9日公開)

http://www1.kyoto-be.ne.jp/ed-center/syokyoiku/skyouiku_8.htm

大阪府教委から、2003年12月25日に以下が公開されています。

「知的障害のある生徒の高等学校受入れに係る調査研究 中間報告」

<http://www.pref.osaka.jp/kyoishinko/shogaikyoiku/koukou/chukan-hokoku/gaiyo.htm>

以下にも、関連情報がまとまっています

<http://www.pref.osaka.jp/kyoishinko/shogaikyoiku/koukou/kenkyu.htm>

かなり古いですが

大阪府学校教育審議会第3分科会答申(1999年 1月22日)

ノーマライゼーションの動向等に対応した養護教育の在り方について(答申)

<http://www.pref.osaka.jp/osaka-pref/kyoisomu/gakyosin/tousin/tousin31.htm>

教育関係以外では

改正ハートビル法

(「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律」)

<http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/build/hbl.htm>

内閣府－障害者施策ホームページ

<http://www8.cao.go.jp/shougai/index.html>

障害者基本計画(2002年12月24日)

<http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kihonkeikaku.html>

重点施策実施5か年計画(2002年12月24日)

<http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/gokanen.html>

都道府県障害者計画を整理したページ

http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/law/pref_plan/

大阪府の支援費制度のHP(2003年12月19日開設)

<http://www.pref.osaka.jp/osaka-pref/shogaifukushi/shienpi/index.htm>

大阪府「福祉の手引き」障害のある方に

<http://www.pref.osaka.jp/osaka-pref/shogaifukushi/tebiki/tebiki.htm>

宮城県知事の施設解体宣言(2004年2月23日公開)

<http://www.pref.miyagi.jp/syoufuku/chiteki/kaitai.htm>

TEACCH カンファレンス in 大阪参加報告 その1

府養研本部書記 藤岡聖典

この会は2004年2月7日(土)～2月8日(日)大阪郵便貯金ホール(メルパルクホール)にてTEACCHプログラム研究会15周年記念事業として催されました。府養研から取材を兼ねて参加しましたので、紹介させていただきます。ただし、数時間の話を記憶の範囲で簡単にまとめており、主観が入っている点をご了承ください。今回は1日目の講演の内容についての報告です。

講演はゲーリー・メジボブ教授(ノースカロライナ大学TEACCH部部長)による「TEACCHプログラムの現在と共有してきた価値体系(コア・バリュー)」とキャサリン・フェハティ先生(アッシュビルTEACCHセンター教育心理士)の「高機能自閉症の人たちへの支援」の2つでした。通訳が大変わかりやすく、英語が苦手な者にも楽しい講演でした。

ゲーリー・メジボブ教授の話はジョークやウィットに富み、わかりやすかったです。日本で初めてのキャンプ等の取り組みでは、TEACCHプログラムの構造化のわかりやすさが職種や文化の違いを越えて人を結びつけ、自閉症の子ども達も心配をよそに楽しんで参加できたそうです。アメリカで生まれたシステムでありながら、日本人の丁寧さや勤勉さがよりよく反映されてかえってなじむようだとおられました。大変な苦労や困難があっても、それを利点に変えてしまうような教授の姿勢がうかがえました。同じ立場で考え、理解することで本人や家族への敬意が生まれる、理解すると、どう支援すればいいかわかる、パーフェクトはなくても、常によりよいものを目指すことが大切と言っておられました。幻想を持たない理想主義、難しさを正しく理解した上で、将来に向けてプラス指向でいくことが大切ようです。



本家のノースカロライナの方では、低年齢での診断が可能になっており、精神障害やADHD、難聴などとの複雑な重複の場合の診断についても可能になってきています。さらに高機能自閉症も正しく診断されるようになり、全体のニーズが増えています。成人の人、就学前の援助プログラム、教科別プロジェクト、地域にでて就労するためのグループなど、様々なニーズにも取り組む必要

がでてきます。それらに取り組み、具体的に形になっている様子がスライドで紹介されました。共働きの両親のために、夜間グループが集まるという工夫もあるそうです。多様で難しいニーズが、その時点で自分たちの限界を越えていても、なんとか解決していこう、できないならできるシステムをつくろうという姿勢に感動しました。また、新しい事実を発見し、対応に生かすため、脳の機能と自閉症の関係についての研究のプロジェクトも始められています。意欲的です。

キャサリン・フェハティ先生は、高機能自閉症の人への支援として、まず、そこに行くとは何が起こるか、何ができるかわかる「構造化された指導」について述べられました。気持ちを静めるエリアについての重要性を述べ、具体的にすぐにできる方法もあわせて紹介されました。変化に弱い自閉症の人が安心できるように、スケジュールや絵や単語で「どれくらい、いつ終わる、次は」と示すことも構造化である、と言っておられました。

言葉で尋ねることも可能な高機能の人でも、その気持ちを正確に知るためには、紙に推定できる項目を書いて選択させたり、やりとりがスムーズになるようなチェックリストの活用も効果的なようです。簡単な絵にセリフをつけてやりとりするなどの方法も紹介されました。これらは、コンピューターでも代用することもできます。彼らが正



確な社会情報を理解できるように、そして、それをどう理解しているのか誤解していないか知るためにもそういった工夫は大切なようです。自閉症の人が自分の強みや弱みを知り、自閉症のことを肯定的に理解し、自尊心をもてるように、そして、できればそれが思春期までに取り組めるたら良いということでした。自閉症の人にとって楽しく、快適で意味のある社会的経験ができる取り組みをすること、周囲の人が自閉症を理解し、共感をもてるような啓発の話もなされました。

自閉症の子ども達は付き合っていくととても可愛く感じる、そう感じる人が世の中にもっと増えたらいいなあと心から思える会でした。

今回は2日目の実践報告の紹介をします。